

彦根城博物館所蔵『今昔物語』巻十の本文の位置づけ

中 根 千 絵

はじめに

論者は、『説林』五三号において、彦根城博物館所蔵『今昔物語』（全巻、表紙の題は『今昔物語』と書いてあるが、内題には『今昔物語集』とある。）の紹介を行ったが、その際、本の空白部分の分析、流布本系共通脱文の分析から、

は、内閣文庫本Bに近い流布本系の本であり、内閣文庫本Bより良い本であろうと論ずる。正しいかどうかは、諸本との一語一語の比較を経て、初めて、立証されるものである。

巻一については、先に論集で分析を行い、彦根城博物館本は内閣文庫本Bとのみ一致する箇所が多く、これは、『説林』五三号で論じたのと同じ傾向であるが、旧日本古典文学大系の底本である東大本甲や東北大本、野村本とのみ一致する箇所もあり、彦根城博物館所蔵『今昔物語』は、流布本系諸本（内閣文庫本ABC、東大本乙）と古本系諸本（東大本甲、東北大本、野村本）の間の状態を有する希有な本であるということを述べた^②。巻二の場合は、鈴鹿本という原本に近い本が残っているせい^③か、古態を残すとされる東大本甲、東北大本、野村本と一致する箇所は非常に少ないという結果が得られた。巻三では、特に、野村本が流布本系と古本系との狭間で揺れている様を見てとることができた。また、様々な要件から、流布本系は、校訂本文を目指した書物群ではなかったかと推測した。但し、彦根本のように、中間的な表記を有する書物の場合には、いまだ、そのどちらとも見定めがたいとし、今後、さらに、巻ごとの分析を続

け、彦根本の性格を見極めると共に、古態本と流布本の総合的な分析を行っていききたいとした^④。巻四の場合に顕著な傾向として現れるのは、古本系との一致度が高く、内閣文庫本Bとの一致度は低いということである。これまで、彦根城博物館本は古態本と流布本の中間的な本として位置付けてきたが、巻四にいたって、古態本の表記を有することが判明したことにより、改めて、彦根本の位置づけを考えてみなければならないこととなった^⑤。巻五の場合は、内閣文庫本Bとの一致度は他の流布本と同じ程度である。巻五、巻七、巻九では、巻二と同じく、鈴鹿本という原本に近い本が残っているせいも、古態を残すとされる東大本甲、東北大本、野村本と一致する箇所は非常に少ないという結果が得られた。但し、巻五、巻七では全体として、流布本系の諸本と表記が一致するにも関わらず、固有名詞等については、古本系諸本に依っており、これは巻四と同じである^⑥。巻六については、巻三と同様の結果が得られた^⑦。巻十についても引き続き、彦根城博物館所蔵『今昔物語』の本文を他の諸本と比較することにより、彦根博物館所蔵『今昔物語』巻十の位置づけを試みることにしたい。但し、諸本の収集は、いまだ、その途上にあり、旧日本古典文学大系『今昔物語集』の校異と頭注から必要な部分を抜き出す形で、諸本との比較を行うこととする。

彦根城博物館所蔵『今昔物語』巻十の本文異同

凡例

一番上の段は旧日本古典文学大系のページと行、次の段は彦根城博物館所蔵本の本文、次の段は彦根城博物館所蔵本と同じ本文を持つ本の種類である。(但し、異体字などの字形が異なるものについてはこれに含め、その都度指摘した。)

★印は彦根城博物館所蔵本独自の部分であり、その部分については諸本の例を示した。旧日本古典文学大系に載る考察は必要に応じて「」に入れて付した。

各本の略語は次の通りである。

底―旧日本古典文学大系『今昔物語集』の底本（鈴鹿本（京大本））【旧日本古典文学大系『今昔物語集』の底本が現在の諸本のうちの古態本にあたると思われることから、底の字を使うことで、それが一見して明らかとなるようにした。】
北―東北大本 野―野村本 甲―東大本甲 以上、古本 乙―東大本乙 A―内閣文庫本A B―内閣文庫本
B C―内閣文庫本C 以上流布本 鈴鹿本（京大本）を除く諸本―諸
彦―彦根城博物館所蔵本
大―旧日本古典文学大系

巻十の底本は鈴鹿本（京大本）

巻十目録

二六七 一（欠）（第四）

底甲北野Bは欠、甲北野は序数以外を、Bは漢武帝以張寒令見大河水上語第四イと行間に補入

第四（第五）

底甲北野B（四に野は五、Bは五イと朱傍、以下第十四まで之に準う）

一（欠）（第八）

底甲北野Bは欠、甲北野は震旦吳招見流詩其主語、BはACのそれを行間に補入

莊子「一字分欠」第九 諸（Aの空格は一字分）

（巻十一）

敬備看 第十

底甲北野B（底甲北野Bは殺）

（第十二）

値死妻死(第十八) 底甲北野B (甲は被打、Bは被打イと朱補)

刺吏(第二五) 「刺吏」底甲北野B (彦底甲北野Bの刺は異体、史は吏に作る)

釵魚(第二八) 甲北野B

國王服乳臙擬致醫師語底甲北野B (Bは成脱、成イと朱補、甲北野はACの

(第二九) それを傍書、ACは底甲北野Bのそれを第卅一として立つ)

國王前阿竭陀藥来語 底甲北野B (甲北野はACのそれを傍書、以上の二行に、

(第三十) 北は真清案此二条從卷四天竺部欄入今本文无之、Bは本文無此二條而此処有別條と朱

注)

(二國牙桃合戦 (第三一) B (挑イと朱傍)

(第三一)

山□□國(第三三) B (止此平イと朱補)

成天□□(第三四) 甲北野B (北は狗、Bは狗イ、野は駒と朱補)

百文(第三五) 甲北野AB (野は丈敷と朱傍)

卷十第一話

二六八 3 時從天竺渡利房等 底甲北野B (北は可削卷六コノ事アリと朱注、野は在函陽宮世政、Bは在感陽宮政

世イと朱傍)

7 感谷関ト 「感谷関ト」大

感は、函の借字。底本、「關」の字体は、門構えに「弁」。

10 發キ 甲北野B

- 11 高キ依
B
底甲北野B（野の筋は変）「二節ニシテ」C「一筋ニシテ」大
- 13 一筋ニシテ
「此□□」（底は破損のため約十字分不明。諸本空白、甲北約三字分、野約五字分、A四字分、B約七字分、C一字分）
- 14 此約六字分欠
★「胡國ヲ恐□□」（底は破損のため約十字分不明。諸本以下空白、甲北約十四字分、野約十八字分、A五字分、BC約三字分）
- 14 治約十字分欠
「治□□」（底は破損のため約十一字分不明。諸本空白、甲北野B約十一字分、A五字分、C十八字分）
- 二六九 7 高大魚
底ABC
甲野AB
- 9 漕キ出ス
★「方土ニ底甲北野ABC大」（底甲北野Bの土は異体、北野は土、Bは土イと朱傍）
底ABC
甲北野B
- 12 方土
底ABC
- 14 世ニ
甲北野B
- 16 不可着スト
甲北野B（Bは魚イと朱補）
「ト云忽テ」大 諸本ト以下三字欠。
- 二七〇 1 高大
「約五字分欠」急
「忍□□彼ノ所ニ行キ」底甲北野大（底は破損のため約二十四字分不明、甲北約十八字分、野約一行分空白）
- 3 急約一行分欠
ABC（空白部、A十三字分、B約一行、C八字分）
- 4 急約一行分欠
急
「忍□□彼ノ所ニ行キ」底甲北野大（底は破損のため約二十四字分不明、甲北約十八字分、野約一行分空白）
- 4 大海約十三字分欠
諸（空白部、甲北約十一字分、野約十六字分、A十字分、B約十六字分、C七字分）
「大海□□見ル事ヲ」

- 5 死ス (底破損のため約十字分不明)
北野 A B C
- 6 蒙ニケルニ 甲野 A B C (Bは前のニにクイ、Cは後のニにトイと朱傍)
- 6 約二字分欠云フ所ニ 底甲北野 B 大 (約二字分空格) 「云フ所ニシテ」 A C
シテ
- 8 見ノ所ニシテ A B C
- 9 聞歎 「不聞ズシテ」 甲北野 (聞は異体 即ち中は弁、甲野は開と朱訂) 「不聞スシテ」 B
不聞スシテ
- 10 可開キ也 底 A B C
野 A B C
- 11 死ス B
- 11 其ノ後遺言
- 12 云合セツツ 底甲北 B 大 「云合セツテ」 野 「云合セテ」 A C
- 15 有魚 諸 (有に甲は方歟と朱傍、Bは朱圈点)
- 16 不似ナル故 B
- 二七一
2 其ノ時ノ A B C
- 7 浅キワラ A B (Bはワにス歟と朱傍)
- 7 死ヤ A B C (Bは況イと朱傍)
- 7 我カ為 A B C
- 10 申サクコレハ A B C
- 10 只マサシク A B C

12 早ク

A B C

二七二 1 難友得シ

底甲北 B (友に甲北は支、Bは支イと朱傍)

3 獨

諸大「猶」C

5 然ラハ

「強攻を事とした、という意を強く表現している。」

6 非ス

底甲北野

6 弃テヨ

北 A B C

10 如シラム

A B C (A Cは棄)

13 感揚ヲ

B

13 始皇ノ

甲北野 B

約三字分欠

(底は破損のため約三字分不明、諸本空白、甲北約五字分、野約八字分、A六字分、

13 消へ

B約三字分、C五字分)

13 消へ

B

卷十第二話

二七三 5 促シ臥ヌ

B

9 下姓ノ人

A B Cは脱

12 約三字分欠
ト云フ

諸 (Aの空格は一字分、C四字分)

卷十第三話

二七四 9 節也

底甲北野 A (野は筋と朱傍)

- | | | | |
|-----|---------|--|--|
| 16 | 有ムトス | | |
| 14 | 既ニ | | |
| 11 | 息ヲ | | |
| 11 | 牙ノ | | |
| 11 | 期臨テ | | |
| 11 | 経ル | | |
| 10 | 心約八字分欠 | | |
| 10 | 年来 | | |
| 9 | 本意約九字分欠 | | |
| 8 | 不知シ | | |
| 5 | 難堪シテ | | |
| 3 | 軍調ヘテ | | |
| 二七五 | 牙ニ | | |
| 3 | 高祖ノ方ハ | | |
| 15 | | | |
| 11 | 有リ以テ | | |
| 10 | 居スト | | |
| 10 | 感楊宮ヲ | | |
-
- | | | | |
|--|--|--|--|
| B | | | |
| A B C | | | |
| A B C (Bは朱圈点) | | | |
| 甲野 A B C (Bは朱圈点、Cは傍訓キバ) | | | |
| 諸 (期の下にAはニ、Bはニイと朱補) | | | |
| 諸 | | | |
| A B C (Bの空格は約八字分、C十字分) | | | |
| 甲北 A B C | | | |
| 約九字分、C十字分 | | | |
| 「本意如此キ也我レ□□也□□」底大(底破損のためレの下約六字分、他の下約三字分不明)「如□□」諸(空白部、甲北約十八字分、野約二十三字分、A十二字分、B | | | |
| 甲北野 B | | | |
| 甲北野 B | | | |
| 諸 | | | |
| 甲野 B | | | |
| A B C | | | |
| A B C | | | |
| 字分) | | | |
| B (りにヲイと朱傍)「有ルヲ以テ」A C「有リ□□ヲ以テ」底甲北野大(空格約二 | | | |
| 甲野北 B | | | |
| 諸 | | | |

- | | | | | | | | | | | | | |
|--|--------------------|--|----------------|--|-------------------|---------------|---------------|----------------|---------------|----------------|--------------------|--|
| <p>二七七 3 不令罰ス成ス</p> <p>3 高祖ノ氣色ヲ</p> <p>4 副止シテ</p> | <p>16 釵ヲ拔テシテ</p> | <p>13 出来 約十六字分欠</p> | <p>12 門ノ下ニ</p> | <p>12 我 約十八字分と一行</p> | <p>11 其ノ向ニ北向ニ</p> | <p>9 至リ會ヌ</p> | <p>9 有ル故也</p> | <p>8 不可有ナル</p> | <p>5 相ヒ牙ニ</p> | <p>2 乱ニシカハ</p> | <p>二七七 1 人ノ許ノ言</p> | <p>16 高祖ソ</p> |
| <p>A B C (Bはノに朱括弧 イと朱傍)</p> <p>諸大 (Aの副は変、甲は制敷、甲は制イ、野は制止敷と朱傍) 「制止シテ」 C 正し</p> | <p>B (下のスに朱圈点)</p> | <p>「出来」其ノ時范増「底大 (破損のためやや不明)」</p> | <p>諸</p> | <p>「我レ」諸 (空白部、甲北約四字分と一行、野約七字分と一行、A三字分と一行、B約二十字分と二行、C一行 我レをも欠く、Bは本ノマ、Cはカケタリと朱注) 「我レ」不可挑ザル事ヲ違事ハ「底大 (破損のため処々不明、違以下十字分破損)」</p> | <p>底 A C</p> | <p>底 甲野</p> | <p>諸</p> | <p>A B C</p> | <p>甲野 B</p> | <p>諸</p> | <p>A B C</p> | <p>底 甲野大 「高祖ヲ」 北 (ヲに朱圈点) 「高祖ノ」 B 「高祖」 A C 「ソは祖の読みを示した、いわゆる全訓すがなと見た。」</p> |

- 4 迹ス
 5 張良ヲ
 5 此ノ
 5 曳云物
 5 白璧
 9 饗セント
 9 麴食ヲ饗ヲ
 10 此ノ
 13 何ノ故
 15 人ノ敬夏
 16 難忘キ故也
 二七八 1 籠 [一字分欠]

- きは「制」
 野 A B (B はヌイと朱傍)
 諸 (北はヲニ抹消府)
 諸
 A B C (C 傍訓ヒキイフモノ)
 北 B C
 諸
 B (上のヲにナシイと朱傍)
 甲北野 B
 A B C
 甲野 A B C (B はノに朱括弧 イと朱傍、甲野 A B C は事)
 諸「難忘キ故也ト」底大
 甲北野 B C (野の空白部は約五字分、B 約一字分、C 五字分、B は本ノマ、C はカケタリと朱注) 「籠陽 []」 A 「籠リ居 []」底大 (破損のため約三字分不明)
 B (シにニイと朱傍)

約十九字と二行空白

底本六行分の空白

(巻十第三話「知ニケリ」の後)

巻十第四話

二七八 8 第□

8 張騫

諸（野は四東、Bは四イと朱補）
大 底本は、チャウケムと付訓。

10 行テ

諸

11 不知ヌ

諸大

15 来レハ也

A B C

16 返リ子云タルヲ

★ 「返リネ云タルヲ」諸 「返リネト云ケルヲ」底大

二七九 1 天約四字分欠上ヲ

諸（空白部に甲は河水・尋、Bは河ノ水イ・尋見ト、ケイと朱補、Cはカケと朱注）

約二字分欠テ

「天河ノ水上ヲ尋テ」底大

1 侍フツ

A C

約二字分欠所ニ

諸（Cの空白部は二字分 カケと朱注）

1 織約五字分欠布ヲ

（野Bの空白部は約五字分、A C二字分、Bは女ハイと朱補、Cはカケと朱注）「織女ハ機ヲ立テ布ヲ」底大

2 曳テ

諸

5 怪ヒ給ケルニ

★ 「恠ヒ給ケルニ」A B C 「恠ヒ思ヒ給ケルニ」底甲北野

5 訪騫

「張騫」大 「底本の字体は、偏と旁とを入れ違えた、いわゆる動用字」（「弓」を、異

体「方」に作る。）

巻十第五話

二七九 12 第四

諸（野は五、Bは五イと朱傍）

二八〇 2 来レハ

5 聞給テ

A B C 「来レル」底甲北野大
底北野 B

9 國へ行ナントスル夏

A B C (Cは事の下にヲイと朱傍、A B Cは国・事)「国へ行ナンスル事」甲北野
「国□行ナムズル事ヲ」底大 (破損のためカナ不分明)

9 我々モト

A B C (Bは々にモクイと朱傍)

10 弊形ヲモ

諸

11 美ナルヲ

底 A B C

二八一 3 春ノ

諸

4 檐ノ 約三字分欠

諸大 (野 Cの空格は約二字分、B約四字分、Cはカケアリと朱注、Bは接続符を附
シイと朱傍)

6 心地シテ

A B C

卷十第六話

二八一 11 第 □

底甲北野 B (野は六、Bは六イと朱傍)

14 娘トモ

諸「娘□」底大 (破損のため不分明)

15 否ヤス惜スシテ

諸「否不惜ズシテ」底大 (破損のため「不」不分明)

15 娘ノ年 約五字分欠

諸 (野の空格は約六字分、A B約五字分、C十四字分、Cはカケタリと朱注)「娘ノ
年 □ 和」底 (破損のため不分明)

15 无限シテ

諸「无限シ」底大

底本の破損は一字分、恐らく「シ」であろうと推した。

	16	参スル人ハ	諸
	16	无カリケル	諸
二八二	1	非ス	甲野ABC
	3	ツラくト	ABC
	4	微妙カリ形モ	AB (Bはりの下にシイと朱補)
	4	當初ニハ	諸
	6	此ノ	諸
	7	思ヒ忘ニケルヲ	諸
	8	極リ	ABC
	10	見ル母ニ	ABC (Bは毎いと朱傍)
	10	計フルレハ	ABC (Bはルにナシイと朱傍)
	14	止ナムトモ	甲北野B (甲はナをマと朱傍)
卷十第七話			
二八三	1	第□	「第七」大
	4	寵思シケル	AC
	4	后ヲハ	底甲北野B大 (Bは空格に接続符を附しイと朱傍) 「后宮ト云ヒ」AC
		后宮ト云ヒ	
	4	武済妃	ABC (Bの空白部は約二字分) トソイと朱補、Cはカケと朱注) 「武淑妃トゾ」底
		約二字分欠	大「武淑妃□」甲北野 (淑は異体、野の空白部は約二字分)

- 5 〔約二字分欠〕次キテ 甲北野B (野の空白部は約二字分 次キテは傍書) 「次キテ」AC 「相次キテ」底大
 6 見約二字分欠 諸 (野の空白部は約二字分、AC二字分、Cはカケタリと朱注、Bは見ニコソイと朱
 傍) 「見バヤト」底大
 7 遊ヒ行キ 甲北ABC
 8 庵 BC
 10 如キ ABC (Bはキに朱圈点)
 10 将参ント (脱) 「将参レ」ト (仰セ給ヘバ、使、彼ノ女ヲ将参タルニ、
 三千人 天皇此レヲ見給フニ、初ノ后・女御ニハ増テ、美麗ナル事倍々セリ。然レバ、天皇、
 喜ビ乍ラ興ニ乗セテ宮ニ将返リ給ヒヌ。) 三千人」大
 13 勝レタリケリ ABC
 15 興シ 甲北野B (野は興、Bは興イと朱傍)
 二八四 2 潦ケル ABC (Bは不審紙、C傍訓イヒ)
 4 歎キ 諸
 7 楊貴妃 諸
 8 既何約八字分欠 諸 (空白部、甲北野約五字分、AC二字分、B約八字分)
 〔既ニ乱レヌ國ノ歎ゲキ〕底大
 9 天下ノ約六字分欠 諸 (空白部、甲北B約五字分、野約七字分、A三字分、C六字分 Cはカケと朱注)
 〔天下ノ暎ヲ可透□ト〕底大 (破損のためやや不明)
 11 堂内ニ ABC
 12 泪ヲ ABC

- | | | | |
|-----|----|--|---|
| | 15 | 難キ悲ヒ給テ | 甲北B (甲は難に歎カと朱傍) |
| | 16 | 掃フ | 諸 (底甲北野の掃は木偏) |
| 二八五 | 4 | 底ノ | A B C |
| | 4 | 國マテハ | A C (A Cは国) |
| | 5 | 其二テム | A B (Bはテにナイと朱傍) |
| | 6 | 御ナル | 底甲北野 |
| | 10 | 手ヲ 約五字分欠 テ | 諸 (甲北野Aの空格部は約三字分、B C五字分、Cはカケタリと朱注) |
| | 12 | 嗟ヌレハ | 底野A B (Aの嗟は変 目偏、Bは曙イと朱傍) |
| | 12 | 御マスカ否 | A C |
| | 13 | 今日至マテ | 甲北野A B (Aはニ、Bはニイと補入) |
| | 14 | 此レ持テ | B |
| | 14 | 天皇 約六字分欠 | ★ 「天皇ニ□」諸 (野の空格部は約六字分、A五字分、B約七字分、C十一字分) |
| | 16 | 天皇ト君 | Cはカケタリと朱注 「天皇ニ可奉シ昔ノ」底大 |
| 二八六 | 3 | 我レニ | 諸 |
| | 6 | 幾程ヲ | A B C |
| | 9 | 許也 (脱) ナレハ | A C |
| | | 「許也 (ケム。然レバ、哀ナル事ノ様ニハ此レヲ云フナルベシ。但シ、安祿山ノ敏スモ、世ヲ直サムガ為) ナレバ」大 | |

卷十第八話

二八六 14 第□

諸 (野はハイと朱傍)

15 [約三字分欠] ノ代ニ

諸 (野Bの空格部は約三字分、A一字分、Cはカケタリと朱注)

二八七 2 誰レト

甲北野 AB

5 徒ニ [約五字分欠]

諸 (ACの空格部は約二字分、B約六字分) 「徒二年ヲ経ル」底大

6 此等 [約三字分欠] 憑テ

諸 (底、破損のため約三字分不明、諸本空白、甲北約三字分、野約五字分、A二字分、B約四字分、C三字分)

6 糸惜 [約五字分欠]

(底、破損のため約四字分不明、諸本空白、甲北約五字分、野約九字分、A二字分、B約六字分、C三字分)

6 少々ヲ

諸

8 一人女御

諸

11 哀レニハ

ABC

11 戀ヒツル

ABC

14 其ノ手ニ主ニ

甲北野B (Bは上の二にノイと朱傍)

16 思ヒ暖マレ也

B (ヌレにスル事イと朱傍) 野は脱

二八八 2 自然テ

ABC (Bはテにナシイと朱傍)

3 不愚ヌ

底甲北

9 我等ヲ見付タリケン

★ 「我詩ヲ見付タリケレ」 ABC

[約八字分欠]

七字分、B約九字分、C十三字分 Cはカケタリと朱注) 「我等ヲ見付タリケル」□

甲北野 (野の空格部は約五字分) 「我ガ詩ヲ見付タリケル人ノ造レルカト」底大

卷十第十話

二九一 第八

- 13 智リ 底甲北野
 13 首ヲ侶テ 諸
 13 貴クシ敬ケリトナム 諸

3 云所ニ 約三字分欠

諸 (Bはナイと朱傍)

諸 (野の空格部は約四字分、A二字分、Cはカケと朱注)

6 調へ 約二字分欠

北野ABC (Aの空格部は約一字分、Cはカケと朱注)

8 弟子 一字分欠

甲北野B (野の空格部は約二字分、Bは云歟と朱補)

11 賢コキ人

「賢キ人」大

底本破損のため「キ」不明なるも前例により補う。

11 善キヲ勸メ

甲北野AB (Bはメにナシイと朱傍、甲北野ABは事) 「善キ事ヲ勸メル」C (ルにイと朱傍) 「善キ事ヲ勸メ」底大 底本、ヲ勸メの三字不明。

14 有ナン

甲北B

二九二 1 行サムト為ニ

ABC (Bは不審紙、為にC傍訓スル)

4 離々シムト

B (離の上に蔭ヲイと朱補 々にレイと朱傍)

4 尽シトモ

AC (Cはシにスイと朱傍)

6 此レ

B

7 此ノ生ノ

ABC

11 礼ニ入テ

甲ABC (二に甲はミ、Bはナシイと朱傍)

巻十第十一話

二九二 15 請約三字分欠粟 底甲北野 B 大 (約二字分空格) 「請□許借粟」 A C (Cはカケタリと朱注)

15 語第九 「語第十二」大

二九三 2 約三字分欠 ト云フ人 諸大 (Aの空白部は一字分、B約四字分、Cはカケタリと朱注)

3 約四字分欠 云ク 諸大 (Aの空白部は一字分、B約四字分、Cはカケタリと朱注)

7 一有テ A B (Bはテにリイと朱傍)

12 云フ B

12 約四字分欠 ト云フ所 諸大 (野 Aの空白部は三字分、B約四字分、C五字分 Cはカケタリと朱注)

15 命不食スシテハ B

巻十第十二話

二九四 3 第十 諸 (野はニ、Bはニイと朱補)

15 心得ル A B C

16 自然ヲ A B C (Bはヲにライと朱傍)

16 不死サルヲ B (サルヲに朱括弧イと朱傍)

二九五 1 死ス 北野 A B

巻十第十三話

二九五 5 第十一 「第十三」大

10 不知ヌ A B C (Bはヌに朱括弧 イと朱傍)

- 二九六 1 知レルヲト
 12 増サル
 15 浮ヒ遊フ
 諸
 ABC (Bはヲにソイと朱傍)
- 卷十第十四話
 二九六 7 第十二
 「第十四」大
 ABC
- 7 至蓬萊語
 ABC
- 8 約三字分欠ノ代ニ
 諸 (野Bの空白部は二字分、C約三字分 Cはカケタリと朱注)
- 9 蹈ル
 B 「踏ラル」諸大 「フミニジラル」とよむべきか。
- 10 道辺ヲ
 諸 (諸は邊)
- 12 行キ還フ人
 B
- 13 給ヘルハ
 B
- 16 仙法ヲ
 ABC
- 二九七 1 行ヒテ
 ABC
- 2 埋ミ隠シシテ
 B
- 5 虚空飛フニ
 底甲北野
- 7 然ハ自然ヲ
 B (ヲに朱圈点)
- 7 耻カシク
 諸「耻カ□シク」底大
 底本破損、「ハヂガマシク若しくはハヂガハシクとあったものであろう。」

卷十第十五話

- 二九七 12 「一字分欠」ノ代ニ 諸大（Cの空白部は二字分 カケと朱注）
 14 遊ヒ行ニハ A B C
- 二九八 6 柳下恵ノ道ヲ行ク間ニ A B C
 書シテ A B C
- 8 自然ニ A B C
- 12 物ノ具苦ヲ 諸（苦に甲は共歟、野は共歟東と朱傍）
 13 悪キノ限リヲ B 「悪キノ限リヲ仕タリ」 A C 「悪キノ限リヲ□タリ」
 「約二字分欠」タリ 底甲北野（野の空格は約二字分） 推するに、「尽」か。
- 14 参レト 甲北野 B（甲はレの下にリ歟と朱補）
 15 何ニ依テ B（テの下ニソイと朱補）
 者ナ、リ 底甲北野
- 15 教ヘント為ニ 諸（トに野は無東、Bは朱括弧で囲みイと朱傍）
 二九 1 先「約二字分欠」 B（ツイと朱補）「先ツ□ツ」 A C（Cはカケと朱注）「先ツ」底甲北野大
 目 A C
- 4 音マシテ A B C
- 8 心ノ「一字分欠」ト為ル 諸大（Aはアキなく挿入符あり、北は掟字拾と朱補、Bは本ノマ、と朱注）
 9 云ヒ B（朱圈点を附す）
 10 心ノ盗ニ恣ニ 甲北 A B C
 13 莊咲テ B（莊に朱圈点）

- 14 御座シテ A B
- 15 **約三字分欠** 山ノ 諸 (Cの空白部は四字分、北は首陽字拾と朱補、Cはカケタリと朱注)
- 16 教へ立タリト 諸
- 三〇〇 1 **衛約三字分欠** ノ門ニ 諸大 (約二字分空格)
- 1 終 シテ 甲北野 A B (Bはニイと朱補)
- 2 不過 **約二字分欠** 野 A B C (Cはカケタリと朱注)
- 3 善キ夏モ悪キ夏モ 底 (底は事)
- 4 刻テ 甲北野 A B (甲北の刻は異体、野 A Bは変 野は削東、Bは削イと朱傍、北は冠トシ字拾と朱補)
- 5 追ハレ B
- 5 **約二字分欠** ニ削ラル 諸 (甲北 A B Cの空白部は約一字分、北は衛字拾と朱補)
- 5 何ヲ A B C (Bハフにソイと朱傍)
- 6 可云キ夏ニ B (Bは事)
- 8 乘リ給ヌニ 甲北野 A B C (ヌに甲はフ歟、Bはナシイと朱傍)
- 8 轡ヲ 底大 底本の字体は異体字。即ち、下が「口」の代りに、「亡」の異体。
- 8 取り **約三字分欠** 諸大 (Cの空白部は三字分、北ははつ字拾と朱補、Cは カケタリと朱注)
- 8 踏ミ誤テ給 A B C (Bはテにリイと朱傍)

巻十第十六話

三〇〇13 約二字分欠代ニ

諸（Cの空白部は三字分 カケタリと朱注）

16 一シテハ

A B C（Bはハに朱圏点）

16 照スモ

A B C（Bはモにナシイと朱傍）

三〇一7 讚メ一字分欠スル

諸（野Cの空白部は約二字分、北のメはヌに近し）

巻十第十七話

三〇一10母

諸大 正しくは「虎」とあるべきものを、母を害した虎ということから概念の混淆を来したものであろう。

12 一字分欠代ニ

諸（A Bの空白部は一字分、Cはカケタリと朱注）

13 虎ヲ

底北B（北はヲをテと朱訂しその上に有イと朱補）

15 虎ヲ

諸

巻十第十八話

三〇二12 死ス

北野A B C

14 悲テ

B

15 経ル

諸

三〇三1 喜フ所也ト

A B C

2 將軍ヲ捕ヘテ

諸（甲野はヲの下やや空白、北は漢字一字分にヲを書く）

3 怖テ迷テ

A B C（Bはチイと朱傍）

4 打レテ

諸

5 約二字分欠皇

甲北野 A B

8 人ノ

A B C

卷十第十九話

三〇三 13 約一字分欠代ニ

諸大 (A Bの空白部は約一字分、Cはカケタリと朱注)

三〇四 2 持テ

諸「得テ」底大

5 合ノ夏

A B C (Bはフイと朱傍、A B Cは事)

5 納ヲ

B (約イと朱傍)

卷十第二十話

三〇四 11 約一字分欠代ニ

諸 (A Bの空白部は約一字分、Cはカケタリと朱注)

14 宿メテ

甲 B (Bはテに朱括弧 イと朱傍)

15 有ハ

A B

三〇五 2 還ニ時ニ

甲北野 B (Bはルイと朱傍)

2 君カ家ニ

諸大

3 荒靡シテ

A B C (C右傍訓クワウハイ 左傍訓アレハテ)

4 死ニテキ

甲北 A B C

6 付テ

A B C

巻十第二十一話

三〇五 12 一字分欠 代ニ

諸大（甲北 A C の空白部は約一字分、B は殆どアキなし）
「内容より推するに唐。」

三〇六 2 寢屋ニ

A B C

2 東枕ニナラム

諸

5 臥ス

A B C

5 其ノ時敵キ

B

巻十第二十二話

三〇六 14 一字分欠 代ニ

諸大（甲北 A B の空白部は約一字分）
「蒙求より推洗馬、後漢。」

14 晩レテ

A C

15 相ヒ牙ニ

底北野

三〇七 1 金二十両

野 A B C

3 何ル

A B C

4 死人

A B C（B はノ敷と朱補）

5 取り出シ

A B C

7 納メ置キケリ

甲北野 A B

8 此ノ人ノ馬ヲ

B

10 衾ヲ

諸（底は破損のためヲ不明）

- 10 云テモ
甲北 A B (Bはモにナシイと朱傍)
- 13 卷キ被揚レヌ
甲北野 A C
- 16 然ニ
A B (Bは二にタイと朱傍)
- 三〇八 6 隠レタリシ徳
甲北野 B
- 8 聞エ有テ
底甲野
- 卷十第二十三話
- 三〇八 14 一字分欠代ニ
諸 (A Cの空白部は一字分、Bは殆どアキなし、Cはカケタリと朱注)
- 三〇九 1 歎キ云ク
諸
- 4 我ト
諸 (Bはトに朱圈点)
- 4 不療
A B C
- 5 死ス
A B C
- 8 行ケ道ニ
B (クイと朱傍)
- 10 令服メムスラムト
諸
- 卷十第二十四話
- 三〇一〇 10 行キ
A B C
- 11 達ス
甲 A B C
- 14 令遂ムル
A B C

巻十第二十五話

三一 1 5 世間ノ夏ヲ

A B C (A B Cは事)

7 夕サリノ食ニ

甲北野 B

7 宛テムトシテ

A B C

16 行キ

A B C

三二 1 1 吏ニ

諸

5 汝カ

A B C (Bはカにハイと朱傍)

6 実ナンハ

A B (Bはんにレイと朱傍)

巻十第二十六話

三二 1 1 2 寵愛シ給フ

諸

14 觸ル、

A B C

16 簾外ニテ

諸

三三 3 3 文君ニ

底甲野 B

5 後

A B C

巻十第二十七話

三三 1 1 1 見荊枯

底 A B

12 約二字分欠代ニ

諸大 (Cの空白部は約一字分 カケタリと朱注)

12 次ヲハ

A B C

13 三人共

諸

16 約二字分欠 ケリトナ 諸 (野Cの空白部は約二字分、Cはカケタリと朱注)

ム取テ

三一四 3 失ニケリ

A B C

5 榮エ生ル夏

「榮エ生ル事」底甲北B

卷十第二十八話

三一四 11 一字分欠 代ニ

諸大 (A Cの空白部は一字分、Bはアキなし、Cはカケタリと朱注)

11 約二字分欠 ト云フ

諸大

三一五 7 怖忽ニ

A B C

卷十第二十九話

三一五 11 第 □

諸 (Bは本ノマ、と朱注し 「目録不載而有別条之標目」と朱頭注)

12 約三字分欠 ノ代ニ

諸大 (Bの空白部は二字分)

13 玉造ノ玉ヲ見テ

A B C

16 造セ給ケレ

A B (Bはハイと朱補)

三一六 2 不用ノ物ト

A B C

5 尚ハ

諸 (Aは本ノマ、と傍書、C傍訓ネガハク)

5 極有ラムト

A B C

7 蒙テソ

底甲北野

- 11 有シカハ ★ 「有マシカバ」底甲野大（マは古体）「有ナンカハ」北「有リシカハ」ABC
- 11 斬ナマシト ABC

巻十第三十話

三一六 16 第□ 諸（Bは本ノマ、と朱注し「目録不載而有別条之標目」と朱頭注）

三一七 2 「約二字分欠」依テ 諸大（野の空白部は約三字分、AC一字分、Cはカケアリと朱注）

- 3 衛律行き着クニ ABC 「衛律行き着クナニ」北「衛律行き着クマニ」底甲野（底甲のマ古体）マは

間・時の意。

- 4 早 B

- 6 天皇ニ 底甲北野

巻十第三十一話

三一七 8 牙挑合戦 ★ 「牙挑合戦」諸（牙に、甲は互の異体、Bは互歟と朱傍）「互挑合戦」大

- 16 「約四字分欠」ト云フ 諸大（空格部二字分二例あり、Cはカケタリと朱注）

三一八 1 相牙ニ 甲野

2 「約一字分欠」國ノ王 諸（甲北ABの空白部は約一字分、Bは本ノマ、Cはカケと朱注）

- 2 死ス ABC

- 4 失ヨリハ 甲北野AB

- 5 敵國ニ ABC

- 7 前立タラム ABC

卷十第三十二話

三二一 7 一字分欠代ニ

(Aの空白部は一字分、Bはアキナシ、Cはカケタリと朱注)

- | | | |
|--------------------------|--------|--------------------------------|
| 8 | 適ニ | 甲北ABC (Bは適に迹イと朱傍) |
| 14 | 失スレハ | 甲野B |
| 15 | 俎ト | 甲北野B (甲は俎カ、野は俎、Bは俎イと朱傍) |
| 16 | 向ヒ給フ | ABC (Bはフにヘイと朱傍) |
| 三一九 2 | 諫メリシモ | 底甲北野B |
| 16 | 然レハコソ | 甲北野B |
| 16 | 敵ニ | ABC |
| 三二〇 3 | 打チ立テ、 | ABC |
| 〔彦は三十二話の文の一部が間に挿入されている。〕 | | |
| 6 | 如此クニテハ | 底ABC |
| 7 | 斬ラヌト | ABC (Bはヌにヌイと朱傍) |
| 8 | 宛テ、 | ABC |
| 10 | 墨 | ABC |
| 11 | 牙ニ | 底 |
| 12 | 里ク | ★ 「墨ノ」底甲北野大「墨ク」AC「里ノ」B (墨イと朱傍) |
| 15 | 大刀 | 底甲北 |
| 三二一 1 | シハラ焼テ | 北野ABC (野は朱圈点、Bはラにライと朱傍) |

	8	盗ミ取ラムカ為	A C
	9	立テ取出ス	底甲北野
	11	蔵ニ	諸
	12	云フ夏ヲ不知シテ	北A B C (北A B Cは事)
	13	何ヲ何コニ	B
	14	太刀ヲ	諸
	15	蔵ノ護リ者ノ共	B
	15	見エ	甲野A C (野はユと朱傍)
	三二二	祖子ナラハ	甲北野B C
	4	可被捕ナヲ	A B C
	5	習ヒトシト	B
	8	日晚方ニ	諸
	13	係ケツ	A B C
	16	打チ振テ	底甲北野A B C (甲北野の振は変 即ち手偏に辱、北は振イと傍書)
	三二三	過キヌ	諸
	2	皆テ	A B C (Cは皆に背イと朱傍) 「皆□□テ」甲北野 「皆□寝入テ」底大 (破損のため約一字分不明)
	2	不入	A B C (Bは本ノマ、と朱注) 「不□人」甲北野 「覓人ハ」底大 (破損のためやや不)

卷第十三十三話

8 徳也ナリトナム

甲北B

三二五 12

約二字分欠 代ニ

諸大 (Aの空白部は一字分、Cはカケタリと朱注)

原典に従えば「魏文候時」

12

約三字分欠

ト云フ人

諸大 (甲北野の空白部は約三字分、Aの空白部は一字分)

原典に従えば「西門豹」

12 北ノ方ニト云フ

ABC (Bは一本空二字位と朱注) 「北ノ方ニ」ト云フ」底甲北野大 (甲北野の空

白部は約三字分)

原典に従えば豹は艸の令となった。

三二六 2 潔齋シテ

底大 底本の「齋」は通字「齊」。

5 奉ラ

B

6 已ミヌ

★ 「亡ビヌ」底甲北野 「亡ミヌ」 AB (Bの亡は異体の変 亡ミに亡ヒヒと朱傍)

「亡シヌ」 C

6 失ツ

ABC

10 王ノ輦ニ

底北AC大「玉ノ輦ニ」野B

三二七 5 篋ル

諸 (彦底甲野Bの蔑は変 即ち竹冠)

5 参ソレ

底甲北B

5 如此クヤハ

約二字分欠

甲北ABC (Cはカケタリと朱注) 「如此クヤ」野「如此クヤハ為ル」底大

6 カタ奇キ者ヲ

ABC

	16	思フ	諸
三三〇	1	銀ノ	底甲北野大（甲北の空白部は約三字分、野約四字分）「銀ノ」
		約四字分欠	B 「録ノ」
			A 「緑ノ」
			C 「」
			前後より推するに「玉」。
2	2	玉ヲ	★ 「玉ヲ以テ」
		約四字分欠	底大 「玉ヲ」
		テ	甲北野 AC（ACは二字分空白）
			「玉ヲ」
			B
			諸
2	2	百千瓔珞	諸
			ABC
2	2	付テ	ABC
3	3	身ヲ荘レリ	★ 「身ヲ荘リト」 諸大
4	4	卅六町	香シ諸（野BCの空白部は約二字分、北は二歟と朱補）
		約二字分欠	
			BC
4	4	一庵ノ	諸
6	6	放ツ如シ	ABC（Bは差イと朱傍）
6	6	老隠シタリ	諸（諸は無）
7	7	具ナク	「具」は「俱」に通ずる。「俱」はタグヒと訓ぜられたことがあったものと考えられる。それとも、類の傍「頁」の譌であろうか。いずれにしても、たぐいなく、の意と取る。」
8	8	遽テ	AB（Aの遽は変）
8	8	懐シテ	B（シにレイと朱傍）
8	8	千人ノ	ABC

12	然レハ十万人ノ	B	
11	傳ノ	B	諸 (Bは朱圈点)
9	多ノ	B	
8	被定レテト云所ニ	大	底甲北野B (トの上に甲は「恐欠」、Bは「此処一字位空シイ」、北は云の上に「脱」と朱注) 「被定レト云所ニ」AC (Aはテに「本」と朱傍) 「被定レテ」ト云所ニ
8	不軽ス	甲北野B	
6	庵ニ	ABC	
4	槌ニ	BC	
3	墨ノ塗テ	「墨ノ塗テ」甲北野B (ノに甲はヲ歟、Bはヲイと朱傍)	
10	自然ニ	ABC	
9	オキニ	甲北野AB (甲は旁に夾を朱補、北はイ全、野は挟東、Bは狭イと朱傍)	
6	約二字分欠極テ	諸 (野の空白部は約二字分、A四字分、B三字分、Cはカケタリと朱注)	
4	此ノ所ニ	諸	
2	膳シ難シ	「將難シ」底大	
12	生タルモ	ABC (Bはニイと朱補)	
12	手ヲサ	B	
12	庵ニ	BC	
11	悦テ	ABC (Bは怖イと朱傍)	

卷十第三十五話

三三三二 第卅五

12 件ノ

A B C

諸

16 〔約二字分欠〕代ニ

諸 (A Bの空白部は一字分、Cはカケタリと朱注)

16 石率堵婆ヲ

諸 (石の下に野はノ東、Bはノイと朱補)

三三三三 為テム

B

4 不可下スシテ

甲北野 B

B (二にナシイと朱傍)

10 結ニ継キツ

甲北野 A B (有に甲北は差敷と朱傍)

12 奘テ

A B C (C傍訓カク)

12 〔約二字分欠〕動カス

諸 (A B Cの空白部は二字分、Cはカケタリと朱注)

13 續ニ置タル

A B C (Cはカケタリと朱注) 〔續ミ置タル〕底甲

14 〔約二字分欠〕

北野大 (底破損のため約二字分不明、諸本空白、甲は麻ヲ敷と朱補)

上

A B C 〔上〕 甲北野 〔上ニ取ツレバ〕底大

甲本以下五字欠。

15 細キ 〔約二字分欠〕

諸 (Cはカケアリと朱注) 〔細キ繩ヲ〕底大

15 太 〔約二字分欠〕繩

★ 〔太キ繩ヲ〕底大 〔太〕繩ヲ 甲北野 B 〔大〕繩ヲ A C (Cは二字分空白、カ

ケアリと朱注)

15 其レヲ取レハ

B

卷十第三十六話

- 三三四 6 約一字分欠 代ニ 諸 (ABCの空格は約一字分、Cはカケタリと朱注)
- 6 約一字分欠 洲ト 諸 (Cの空格は三字分 カケタリと朱注、野は洲に州歟と朱傍)
- 10 冬シ寒シ 甲北野B (上のシに北はノ、Bはノイ、下のシに北はク、Bはクイと朱傍)
- 14 中ヒツ 甲野ABC
- 16 苦シキ ABC
- 三三五 2 冷マムカ為 ABC
- 3 身ハ ABC
- 4 此約三字分欠 令知メ 諸 (AB二字分、C四字分空白、Cはカケタリと朱注)
- 給ヘト 「此故令知メ給ヘト」底大
- 4 嬬ノ 北野ABC 「嬬ソ」甲「嬬ガ」底大
- 4 実 諸 (諸は實)
- 4 恠シテ ★ 「恠シト」底甲北野大 「恠シラ」B (シにミイと朱傍) 「怪シテ」AC
- 7 父カ祖父ナトハ ABC
- 7 二百餘ニテナム B 「二百餘テナム」諸大
- 三三六 1 然フ B (フに朱圈点)
- 6 男共ノ ABC
- 6 嗶り合ヒタル程 ABC
- 8 山ニ 甲北B (ニを甲はマと朱訂)
- 9 祖ノ 諸大「侶ノ」底 底本行人偏に「氏」の異体字に誤る。

10	射タルニ依テ	甲北野 A B	
9	青龍既ニ敵ノ赤龍ヲ	甲北野 A C	
7	指シ宛テ	A B C	
4	弱ク	A B C	
3	猶其夜	A B	
三三八	1 宿ス	A B C	
16	牙ニ	底甲野	
三三七	16 一赤シ	底甲北野 B	(二の下に甲はハ、Bはハイと朱傍)
卷十第三十八話			
7	三丈ヲ去テ	B	
7	慥ニ	甲北野 A B	
三三七	3 令食ヌル	A C	
卷十第三十七話			
13	山	A B C	
12	海ニ成リニケリ	諸	
10	音ヲ	諸 (Cはカケタリと朱注) 「音ヲ擧テ」底大	
	約ニ字分欠		

卷十第三十九話

三三九 2 燕船

甲北 B (B は丹イと朱傍)

2 合生

甲北 B (B は令イと朱傍)

卷十第四十話

三三九 14

約一字分欠代ニ

諸 (A B C の空格は一字分、C はカケタリと朱注)

15 相ヒ牙ニ

甲野

16 田葛ノ

A B

おわりに

『今昔物語』卷十の本文の異同を見ると、彦根城博物館所蔵『今昔物語』と流布本系諸本(内閣文庫本 A B C)と古態を残すとされる東大本甲、東北大本、野村本との一致度がほぼ半々である。また、これまでの巻では、内閣文庫本の表現が彦根城博物館本の表現と一致する箇所が多く、それは、空白などの形式と同じ傾向にあった。卷十の場合、文字数の空白部分が多いが、やはり内閣文庫本 B とほとんどの空白の字数が一致するという結果が得られた。

また、卷十は、卷二、卷五、卷七、卷九と同じく、鈴鹿本という原本に近い本を有する巻であるが、先にも述べた通り、流布本と古態本との一致度が半々であり、必ずしもどちらかの表記に従おうという態度はみえない。これは、卷十の場合、鈴鹿本の破損が多く、それに従うことができなかったことが原因として挙げられるかもしれない。その結果、流布本と古態本の両方を参照することになったのかもしれない。先に、卷九の考察において、出典の『考子伝』と鈴鹿本の表記のどちらかに拠った可能性があることを述べたが、卷十では、第七話の「武済妃」について、出典の漢籍及

び、鈴鹿本と古態本の「武淑妃」をとっていないことから、少なくとも出典の漢籍を参照した可能性は低い。鈴鹿本については、その漢字が「淑」の異体字であることから、見てはいるが、「済」の漢字と間違つて写したという可能性は残される。それは、他の巻十の固有名詞の写し方によって判断できることである。巻十第一話の固有名詞を含む「時従天竺渡利房等」は、鈴鹿本と古態本と内閣文庫本Bに見られる表現だが、このところ、流布本系では、「在感陽宮政世」とあり、彦根本は前者と一致する。また、同じく第一話の「感揚」は古態本と内閣文庫本Bが有する漢字表記だが、流布本A（他に、岩瀬文庫本、蓬左文庫本も）は「感陽」の漢字表記となっており、これも彦根本は前者とその漢字表記を同じくする。また、第二十話の「文君」は鈴鹿本と古態本と内閣文庫本Bに見られる表現だが、このところ、流布本系では、「君」とあり、この部分も彦根本は前者と一致する。これまで、彦根本は、鈴鹿本を見て、その固有名詞については、鈴鹿本に忠実であろうとしたのではないかと述べたが、巻十においてはより明確にその傾向

がみえる。引き続き、他の巻においても、その表記、固有名詞の引き写し方について検討を加えていきたい。

注

- (1) 中根「未紹介本『今昔物語』彦根博物館所蔵」についての一考察（『愛知県立大学説林』53号 二〇〇五年三月）
- (2) 中根「彦根城博物館所蔵『今昔物語』巻一の本文の位置づけ」（『愛知県立大学文学部論集』54号 二〇〇六年三月）
- (3) 中根「彦根城博物館所蔵『今昔物語』巻二の本文の位置づけ」（『愛知県立大学文学部論集』55号 二〇〇七年三月）
- (4) 中根「彦根城博物館所蔵『今昔物語』巻三の本文の位置づけ」（『愛知県立大学文学部論集』56号 二〇〇八年三月）
- (5) 中根「彦根城博物館所蔵『今昔物語』巻四の本文の位置づけ」（『愛知県立大学文学部論集』57号 二〇〇九年三月）
- (6) 中根「彦根城博物館所蔵『今昔物語』巻五の本文の位置づけ」（『愛知県立大学日本文化学部論集』1号 二〇一〇年三月）、中根「彦根城博物館所蔵『今昔物語』巻七の本文の位置づけ」（『愛知県立大学日本文化学部論集』3号 二〇一二年三月）、中根「彦根城博物館所蔵『今昔物語』巻九の本文の位置づけ」（『愛知県立大学日本文化学部論集』4号 二〇一三年三月）

- (7) 中根「彦根城博物館所蔵『今昔物語』巻六の本文の位置づけ」(愛知県立大学日本文化学部論集) 2号 二〇一一年三月
- (8) (1)に同じ。
- (9) 中根「彦根城博物館所蔵『今昔物語』巻九の本文の位置づけ」(愛知県立大学日本文化学部論集) 4号 二〇一三年三月